

賑わいづくり施策「発見」マニュアルについて

国土技術政策総合研究所（国総研）

都市研究部 都市施設研究室

コンセプト：まちなかの人の動きや街路空間を「はかる化・見える化」

マニュアルでは次の2つの手法を提案。

- (1) ビデオ撮影やヒアリングを活用した簡易な調査手法
- (2) 歩行空間のつながり等を表現する指標によるストリートポテンシャル評価手法

(1) 簡易な調査手法 について

A) 歩行者の通行量（分布）を「はかる」：手順は次の①→②→③

- ① 動きながらビデオ撮影（自転車に固定したビデオ等）
- ② 地図上でのデータ化（個人属性情報も想定で入力、歩行・溜まりも区別）
- ③ 分析（区間ごとの歩行者数線密度の算出、属性ごとの集計）

→ 特定時点における歩行者通行量の分布・特性が「見える」

メリット：調査を随時実施可能。

属性ごとの分析からマーケティングも可能

B) 歩行者の回遊経路（パターン）を「はかる」：手順は次の①→②→③

- ① 街頭でのヒアリング調査（歩行経路を聞き取り、予定も含む）
- ② 地図上でのデータ化（経路、立ち寄り先等）
- ③ 分析（属性ごとのパターン抽出等）

→ まちなかにおける歩行者回遊経路のパターン・特性が「見える」

メリット：技術的に容易。被験者の同意を得やすい。

回遊の意図についてもデータに反映可能

(2) ストリートポテンシャル評価

○ ストリート評価指標は次の2つの指標で評価。（詳細はマニュアル末尾の資料編参照）

- ・ つながりの良さ指標 （周辺歩行者ネットワークとの「つながり」を評価）
- ・ 通り掛りやすさ指標 （エリア内ネットワークでの「通り掛りやすさ」を評価）

○ 「ポテンシャル」と「歩行者実態」とのギャップがある地域を「発見」!

→（ポテンシャルを生かして賑わいを生み出す施策は何だろうか？）

→ 施策発見の手がかりに

※マニュアルの活用法等については適宜相談にのりますので、お気軽にご連絡下さい。

(nil-tosisise@ki.nilim.go.jp)

※マニュアル等については以下の HP 参照。データのダウンロードも可能です。

○記者発表資料→<http://www.nilim.go.jp/lab/bcg/kisya/journal/kisya20140327.pdf>

○都市施設研究室→<http://www.nilim.go.jp/lab/jcg/index.htm>

○マニュアル→<http://www.nilim.go.jp/lab/jcg/index.files/nigiwai.pdf>

「賑わいづくり施策発見マニュアル」の構成

